

## 〔課題演習抄録〕

「ともに動きをつくる子供」を育てる器械運動  
—第5学年「集団マット運動」を通して—坂東 諭  
Satoshi BANDO

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：集団マット運動, チーム学習, タブレット

## 1 研究の目的

学習指導要領（平成20年告示）体育科では、運動が好きな児童生徒の割合が高まったことや、子供たちの健康の大切さへの認識や健康安全に関する基礎的な内容が身についているなど、一定の成果が見られている。一方で、習得した知識及び技能を活用して問題解決することや、相手に分かりやすく伝えること等に課題が示されている。学習指導要領の改訂（平成29年告示）では、体育科における主体的・対話的で深い学びが求められており、仲間と対話し協力して課題を解決する学習の重要性が述べられている。本研究は、個人で取り組むことが多いマット運動の、回転系や巧技系の技を、チームの仲間と集団で演技する「集団マット運動」を教材化して、運動能力の差に関係なくどの子も進んで運動に取り組む体育科学習のあり方を究明する。

## ① 「ともに動きをつくる子供」とは

マット運動をつくるという同じ目標に向かって、動き方や技のコツを友達と教えあいながら集団マット運動を協働で創り上げて行く子供のことである。

## ② 「集団マット運動」とは

個人種目として活動することの多いマット運動において、集団で回転や静止、方向転換などの演技構成をチームで話し合って決定したり練習したりするマット運動のことである。集団で取り組むことによって児童一人一人のマット運動に対する意欲が高まるとともに、技の出来栄をともに味わうことができる。

## 2 研究の計画

北九州市の公立小学校にて5年生を対象に、6時間単元のマット運動の授業で実践研究を行い、学習カードの記述や授業評価アンケート、チーム学習を通じた友達との関わりから身に付いた動きの高まりの観察、子ども一人一人のマット運動に対する意識の変容を質問紙で調査する。

単元名	器械運動 マット運動（全6時間）
実施期間	令和元年12月4日～16日
学習者	北九州市内公立小学校5学年37名

## 3 研究の内容

## (1) 単元計画

単元を（図1）の通りに計画した。

学習 の 流 れ	①	②	③	④	⑤	⑥
	オリエン テーショ ン	学習準備・場づくり・準備運動				
		体ほぐしの運動 (ゆりかご・腕支持・足打ち等)				
	めあての確認					
	課題把握 技の練習	技の 練習	技の 練習	演技構成 (タブレット使用)	発表会 前練習	
	演技構成 の例の提 示	動きの共有（全体）				発 表 会
		演技構成 隊形・タイミ ングの工夫		演技構成 兄弟グループ での確認		
	学習のまとめ・整理運動・片付け					

図1：単元構想図

## (2) 授業の実際

## ①時間目：12月4日（水曜日）3限

4年生までに学習したマット運動の技を確認し、集団マットを行うグループに分かれて、これまで学習した技の出来栄を確認した。授業の終末では、これからの集団マット運動の見通しを持たせ、集団マット運動の具体的な行い方を紹介した。

## ②③時間目：12月6日（金曜日）2限，12月9日（月曜日）4限

2限，3限の前段では集団マット運動に取り入れる技として「大きな前転」と「側方倒立回転」の動きのポイントを示し，各グループで練習を行った。後段では，図2に示すような「演技構成の例」を示し，同方向に回転したり向かい合って回転したりする演技の仕方に取り組みさせた。子供たちは，号令をかけながら技のタイミングをそろえたりどのように演技すればきれいに見えるのかを話し合ったりしながら練習に取り組んだ。

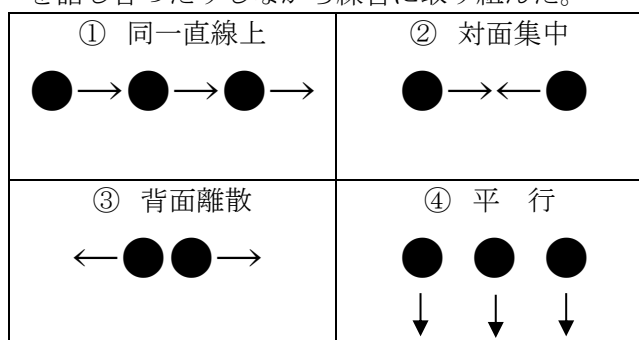


図2：演技構成の例

## ④⑤時間目：12月11日（水曜日）3限，12月13日（金曜日）6限

4，5時間目は，タブレットを活用して集団演技の技と技のつながりの部分や動きのタイミングの合わせ方などを観察して修正するようにした。この時，兄弟グループを編成し互いの演技を撮影させるようにした。

## ⑥時間目：12月16日（月曜日）4限



写真1：集団マット運動の発表

6時間目に写真1に示すように集団マット運動の発表会を行った。一グループずつ全員の前で発表を行った。発表を行う際，自分達のグループの動きのポイントや工夫したところを全体で共有し，発表を見ている児童に対しての動きの視点を意識付けさせた。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

#### ① タブレットを活用しての動きの確認

写真2に示すようにタブレットを活用することで，自身の動きの課題や演技構成を行う中での発見や修正を効率的に行うことができた。学習の振り返りの際，初めて自分達の演技を見て想像していたよりも動きのズレがあった等の感想が多く見られた。タブレットを活用して技の出来栄を確認しながら練習した成果であると考えられる。



写真2：タブレットで技の出来栄を確認

#### ② マット運動に対する意欲の高まり

表1は，6時間目の学習後の振り返りシート（よくできた・少しできた・できなかった）の評価結果の平均を示したものである。グループでの協力やめあての達成について高い評価（共に97.2%）を示している。このことから集団マット運動への意欲が高まったことが分かる。また，振り返りシートに書かれた「マット運動は苦手だけど発表会に向けてチームで活動ができて楽しかった」「好きではないマット運動だけど協力して演技をしたら楽しく活動できた」などの記述からも楽しく運動に取り組めたことが分かる。

表1：学習後の振り返り（6時間目）

①	グループで協力して集団マットができた（97.2%）
②	技のポイントに気をつけながら練習できた（94.4%）
③	友達と楽しく活動できた（94.4%）
④	今日のめあてを達成できた（97.2%）

### (2) 課題

#### ① 演技構成の理解が不十分であったこと。

技の組み合わせや方向転換などに戸惑うグループが見られたことから演技構成への理解を深める時間を十分に取らなかった。

#### 主な引用・参考文献

木戸 達昭 (2006) 運動する意欲を高めるマット運動・仲間と豊かにかかわり合えるシンクロマットを取り入れて・群馬県教育センター 平 18,234 集  
文部科学省 (2017) 小学校学習指導要領解説体育